

平成28年度 助成事業報告書

一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ

事業名：社会へ歳を重ねることの素晴らしさを啓発し、
高齢者の新しい働き方と社会への貢献の方法を伝えるプロジェクト (Dialogue with Time)

事業ID：2015325543

はじめに

DIALOGUE WITH TIME

知恵ある人々との対話

ダイアログ・ウイズ・タイムとは、「高齢になるということ」を考え、世代を超えて、いのち、時間、生き方について対話をする体験型エンターテインメントです。様々な角度からの「高齢者」の体験をおおして「歳を重ねること」は、大きな可能性をもてることであり、そして、将来へ様々な可能性をもつことができると感じていただきたいと願っています。ダイアログ・ウイズ・タイムを案内するアテンドは、70歳以上であることが第一の条件となります。高齢であるエキスパートの70歳以上が、案内役として活躍します。アテンドが今まで時を重ねてきた人生経験を共有し、体験者との世代間を超えた対話により、これからの人生を考えるきっかけを生み出します。

【目次】

0. はじめに
1. ダイアログ・ウイズ・タイム事前調査
2. ダイアログ・ウイズ・タイム開催準備
3. ダイアログ・ウイズ・タイム開催
4. 今後の展開



1. ダイアログ・サイズ・タイム事前調査

“Dialogue with Time”ノルウェー・イスラエル現地視察調査



■ 視察の目的

Dialogue with Timeプログラムを運営している現地にて日本での開催準備に向けた視察、取材、資料収集、ヒアリング

■ 調査内容

✓ 代表理事を含む4名の関係者で、Dialogue with Timeのプログラムを実施している両会場を訪問し、プログラムの実施状況、運営マニユアル、高齢者ガイド及び運営責任者からのヒアリング、日本開催に向けたの取材等を行った。

■ 現地視察調査

✓ 日程：2017年1月14日～17日

✓ 訪問先：

- ・フインランド・ヘルシンキ
ヘウレカ科学センター
(Heureka Science Center)
- ・イスラエル・ホロン
子ども博物館 (Children's Museum)



✓ ヘウレカ科学センターでは、2016年10月16日から2017年1月15日までの3か月間、DwTプログラムを開催しており、30名の高齢者ガイド（70歳以上）を選考し、フインランド語、英語とスウェーデン語でプログラムを提供していた。会場の解体・撤去の現場にも立会い、プログラム実施のための各種設備、内装、備品等についても視察を行った。

✓ ホロンの子ども博物館では、異文化教育などの複数のプログラムの一環として子ども向けにDwTプログラムを常設で提供している。

✓ 視察の内容を踏まえた報告資料を作成し、事前ワークショップでプレゼンテーションを行った。



“Dialogue with Time” 発案者アンブレアス・ハイネツケ氏インタビュー

■ 背景・目的

ダイアログ・ウイズ・タイム発案者であるアンブレアス・ハイネツケ氏のインタビュー映像を収録し、日本開催への意義を伝える。

■ 収録日

2017年2月23日

■ 成果物

インタビュー映像

- ・ダイアログ・ウイズ・タイム開催時(3/25)に待合ロビーにて放映し体験者が視聴。
 - ・アテンドへの説明時に活用。
- ※今後、ホームページでの掲載および協力者への資料として活用出来るよう準備している。

■ インタビュー抜粋

「ダイアログ・ウイズ・タイムをとおして、年齢における「高齢」「幸福」「健康」について考えてください。高齢になることで起こりうる心身の変化に目を向けた上で、歳を重ねることに希望が生まれます。

私たちの70歳以上のアテンドは、高齢になるということの意味を学び、アイデンティティを自覚していきます。アテンドが共有する人生経験をとおして、体験者は高齢者に対してより共感をもつようになります。

日本は世界で最も高齢化が進んだ社会です。90歳以上の人口は最も多いでしょう。高齢という問題に取り組むことはとても重要なことで、歳をとることへのネガティブな考えや理解を、「高齢者は社会の財産である」という考えに変える必要があります。

ダイアログ・ウイズ・タイムの体験が多くの人に認められることで、日本、そして世界で、「歳を重ねることが」が素敵なことであるという考えを拡げていくことが必ずできると信じています。



2. ダイアログ・サイズ・タイム開催準備



ダイアログ・ウイズ・タイム事前ワークショップ開催

■ 目的

- ▶ ダイアログ・ウイズ・タイムの応援者やフアンとなる人を増やす。ダイアログ・ウイズ・タイムについて知ってもらい、歳を重ねるといふことへの考えや世代を超えた対話、高齢について考える機会をもつ。
- ▶ ダイアログ・ウイズ・タイム開催時のアテンド（案内役）候補者と繋がる。

■ 開催概要

日時：1月28日（土） 11時～16時
会場：みずほ証券株式会社会議室（御茶ノ水）
人数：55名（スタッフ等含む）

- ・当初20名想定していたが、希望者が多かったためプログラム内容を変更し、希望者全員が参加できるようにプログラムを変更した。
- ・上記うちアテンド候補者70歳以上は9名参加。
- ・20歳～80歳以上まで老若男女、多種多様な職業、生き方が異なる人々が参加。

内容：ダイアログ・ウイズ・タイムの概要説明

- ・他国現地視察報告プレゼンテーション
- ・高齢について考えるグループワーク
- ・世代を超えた対話をもたらしグループワーク
- ・アテンド適任者を確認
- ・ダイアログ・ウイズ・タイム開催案内

■ 成果

- ✓ ダイアログ・ウイズ・タイムの日本初開催に向けて、参加者に興味・関心を抱いていただいた。

<アンケート結果>

- ✓ 世代を超えた対話について、「初めての体験で貴重な素晴らしい時間であった」との回答がとても多かった。
- ✓ 歳を重ねることについて、「やりたいことを素直に自分らしくやっていきたい」という意見が多く、ワークショップをおとして「高齢」について考える機会を大いに提供できた。

<アテンド候補>

- ✓ アテンド候補者の素質を見極めることができた。
- ✓ 候補者となりうる9名の70歳以上の方が参加し、うち可能性のある3名が開催に関わることになった。



ダイアログ・サイズ・タイム事前ワークショップ：写真



ダイアログ・ウイズ・タイムでの高齢者の育成

- 目的
 - ▶ ダイアログ・ウイズ・タイムをとおして、高齢者へ新しい働き方を提案する。
 - ▶ 社会への貢献方法を提案することで、高齢者をエンパワメントする。

- アテンド
 - ダイアログ・ウイズ・タイムのアテンドの第一条件は70歳以上であることである。日本での初開催に際し、71歳～83歳の5名をアテンドとして雇用し、研修を行い運営した。

- 研修概要

- ① ダイアログ・ウイズ・タイムへの理解促進
 - 日程：2017年3月1日（水）、11日（土）
 - 内容：ダイアログ・ウイズ・タイムの開催概要、コンテンツ、運営の流れ、アテンドの役割の説明および事前練習
- ② アテンドとしての運営の練習
 - 日程：2017年3月22日（水）～24日（金）
 - 場所：ダイアログ・イン・ザ・ダーク外苑前会場
 - 内容：ダイアログ・ウイズ・タイムのコンテンツに即した練習、デモストレーション

- 研修および開催をとおしての成果

高齢者への意欲を促進しエンパワメントすることが出来た。それは、以下のアテンドのコメントや、練習を重ね開催するにつれて、やる気やアイデアを溢れ、いきいきとしていく様子を実際に感じる事が出来た。

<コメント>

- ・ 「今までにない新しい社会への関わり方を知ることができた。」
- ・ （事前ワークショップに息子さんに連れられてきた方） 「練習するうちにアテンドとしてのやり方が見えてきて、自信がいった。楽しい。」
- ・ 「もっとやりたい！是非、次回もアテンドとして参加したい。次回は今回の反省を活かして更に良いアテンドを目指したい。」



ダイアログ・サイズ・タイムでの高齢者の育成：研修写真



3. ダイアログ・サイズ・タイム開催



ダイアログ・ウイズ・タイム開催

■ 背景・目的

世界で最も高齢化が進んでいる日本において、ダイアログ・ウイズ・タイムは社会的に必要とされている。将来定期的に開催することを目標に、1日開催することで、世間への周知、協力者との関係づくり、社会の反応等を確認する。

■ 開催概要

日程：2017年3月25日（土）

場所：ダイアログ・イン・ザ・ダーク外苑前会場

体験概要：

- ・ 人数：57名（キャンセル等8名）
- ・ 全8回、各回約8名、90分程度
- ・ 料金：無料
- ・ 内容：アテンド（70歳以上の案内役）を交えて歳を重ねるということを共に考える体験型エンターテインメント

■ 成果

<周知>

多くのメディア関係者に関心をもっていたいたが、5社に限りご体験をいただき、放送や記事にしていたことで、より多くの方にダイアログ・ウイズ・タイムを知っていただくことができた。

<社会の関心度>

・ メディアの関心の高さからも、ダイアログ・ウイズ・タイムの「高齢」は今の日本社会にとって重要なテーマと言える。

・ 体験希望者も多く、社会の関心が高いことが明らかである。（ホームページとFacebookのみの募集にも関わらず、64名枠に3倍近い申込み希望があった。）

<協力者と関係づくり>

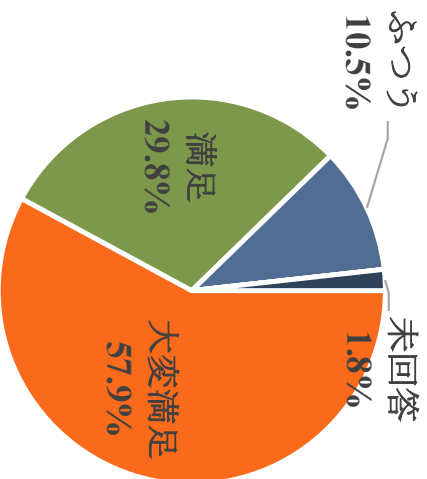
・ 今後の定期開催を目標に、多くの協力企業や応援者等実際にダイアログ・ウイズ・タイムをご体験いただくことができた。

※体験者の反応は次頁に記載する。

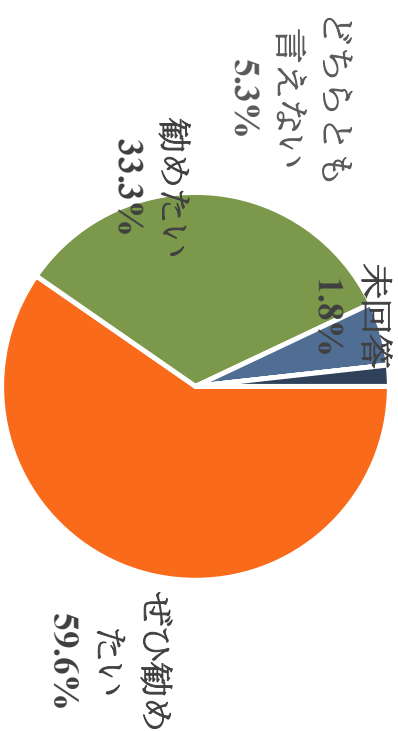
ダイアログ・ウイズ・タイム開催：体験者の声



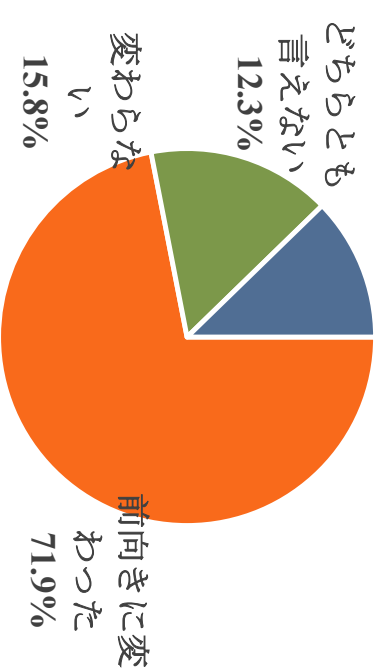
体験の満足度



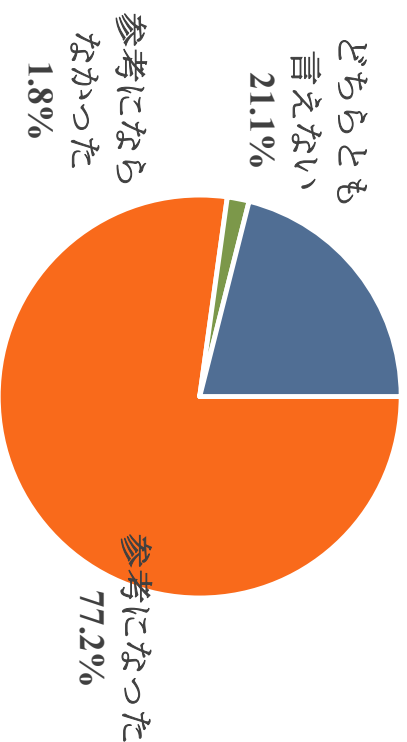
DwTを他の人に勧めたいか



歳を重ねることへのイメージの変化



歳を重ねた時のイメージや計画、理想の老後を思い描く参考になったか



- ・ 92.9%が他の人に勧めたい
- ・ 87.7%が体験に満足
- ・ 77.2%が「老後を思い描く参考になった」
- ・ 71.9%が歳を重ねることへのイメージが「前向きに変わった」

ダイアログ・ウイズ・タイム開催：体験者の声

■ 歳を重ねることへの思いの変化

- ▶ 明るい未来と老いは共存できると信じられることで、これからのTIMEを自ら設計することが大事との思いが変わった。
- ▶ まだ起こっていないことを心配するより目の前のことを楽しんでいけばいいと思った
- ▶ 老化に対する心構えができ、「それでも明るく生きられる」と思えました
- ▶ 83歳のあつこさんに感動し、さらに私も頑張ろうと思った。
- ▶ 気持ちが悪しくなった気がする。何もかも受け入れていける自分になりたい。
- ▶ アテンドさんやメンバーの皆さんの話を聞いたり、プログラムを体験する中で、具体的なイメージが変わってきた。さらに前向きになりました。
- ▶ 漠然とした不安と焦りがあつたが、気持ちのあり方で前向きに変われると感じた
- ▶ まだたくさんやれることがあると思えた
- ▶ もっとゆったり人生を考えてもいいのかもと思った。

■ 歳を重ねることの楽しさ、豊かさ、美しさ、 尊敬を感じた場面

- ▶ アテンドのあたたかい対応、笑顔、イキイキとしていたところ
- ▶ アテンドの方がご自身の人生を語られた時
- ▶ アテンドの人生のお写真を拝見し、現在のあたたかさはずっと積み上げられたものだと感じ、私もそんな積み重ねをしたいです。
- ▶ あまり気乗りしないことでも、一度つきあってみるとい知恵を聞いてなるほどと思った
- ▶ 三浦雄一郎さんの75歳、80歳になっても挑戦している姿
- ▶ アテンドさんのお言葉「その時は辛いと思ったけれど今は財産」を聞いたこと
- ▶ 最後の対話「80歳になった時大切にしていること」の発表の場面
- ▶ 80歳の方も目的を持って生きている姿に感動しました。
- ▶ アテンドの立ち姿、佇まいを見るだけで今まで積みあげてきた年月が表れるなと思った
- ▶ 動作をゆっくりにするだけでこれほど自分の身体を感じられるということ。ピンクの部屋で歩行禅のような瞬間が一瞬あった
- ▶ 導入のビデオでお一人の方の姿容を見たとき、表情がどんどん豊かに変化し始める瞬間が興味深いと思いました。

ダイアログ・ウイズ・タイム開催：体験者の声

■ 老後を思い描く参考になった内容

- ▶ 体を動かせば、体力は向上する！
- ▶ 装具（グラスやアンクルウエイト）を身につけて歩いたみた感覚
- ▶ アテンドの方の活きいきされた様子が何より人生のモデルになりました
- ▶ 家族を大切にしていこうと改めて思った
- ▶ どう過ごしていたいかを想像するいい機会だった。80歳になった時・・・という問いがイメージしやすかった。おだやかな生活を送っていたと思った。
- ▶ 計画を立てずに「生活」そのものに重点を置こうという気づきになった
- ▶ 生きていく姿勢。受け入れること、突然に備え気持ちの準備をすること
- ▶ 何を大切にしたいか、もつとじっくり考えたいなと思いました。今まで将来のことを考えることに前向きになれなかつたけど、少し変わりました。
- ▶ 夢を持っていたいと痛感しました
- ▶ 自身の大切なことの優先順位が見えた
- ▶ やっぱり楽しめるように。そして人を楽しませられるように
- ▶ 自然体でいききたいです。今は周囲ばかり見て自分と向き合う時間が少ない感じなので。
- ▶ 具体的な絵が何枚か見えました。音、声、体感などが体に残りました
- ▶ ゆっくり過ぎずの悪くない
- ▶ 写真を一枚選んだ時に、自分は外に出かけていたんだなと自分のことを知ることができた
- ▶ 自分のためではなく人のために行動できる老後を過ごしたいと思いました。
- ▶ 歳を重ねた時のイメージというのは、実は現在の自分に望むイメージだということ

ダイアログ・ウイズ・タイム開催：体験者の声

■ 自由感想

- ▶ 定期的なプログラムにしてほしい。高齢者の体験や知恵を聞く機会はなかなかないので。
- ▶ アテンドの幸せそうな対応は私達にもエネルギーを分けてもらえる体験でした。
- ▶ 家族以外のお年を召した方とはあまりお話しをしたことがなかったので、とても楽しく感じました。
- ▶ アテンドとしてこのような活動に参加することに憧れを感じました
- ▶ アテンドさんの戦争体験は、特に子供達、若い人々に聞かせてあげたいと思いました
- ▶ 最初80歳になった時の自分が全く思い浮かばなかったのも、これを機会に歳を重ねることについて考えていきたいと思った。もっと話を聞きたかった。
- ▶ すごく楽しかったです。訪問看護をしていると、過去の後悔や未来の不安で苦しくなっている人が沢山います。そういう人たちが「今生きていること」をもっと楽しめたらいいな、とますます思いました。
- ▶ 体験前は「高齢者」について考えるプログラムのイメージであったが、自身の加齢について深く考える契機となった
- ▶ 突然の出来事、思いもしなかったことが起きても、まずは行動することが大切であることを学びました。日々、悔いのないように今を大切にしたいと思いました。
- ▶ 心がおだやかな気持ちになりました。もっと高齢者の方とお話する機会を自分から持つようにしたいです。
- ▶ 当事者になる経験を提供してくれる場。とても大切。ストーリー性を持ってパブリックに発信していきたい
- ▶ 知りあいの高齢者だとその人の人生を知っているのので、先入観を持ちながら話してしまうが、こういう場で素敵な人の話を聞く場があるのはとても素敵なことだと思った
- ▶ 歳を重ねた時のことや老後のことを考える機会でしたが、思い描いているうちに今どう生きていきたいのか、にもつながった。普段は1日、1時間etcの単位で考えちゃう“時間”について今日は人生単位で考えることができました。

ダイアログ・ウイズ・タイム開催：写真



- 写真（ダイアログ・ウイズ・タイムの体験中の様子）



写真上左：年齢による変化
写真上中：年齢への問いかけ
写真上右：高齢者の身体の変化の体験
写真下左：高齢者の人生観と
自分の人生を考える
写真下右：歳を重ねても楽しめる心

ダイアログ・ウイズ・タイム開催：写真



- 写真（ダイアログ・ウイズ・タイムの開催中の様子）



写真上左：体験前のロビーの様子
写真上右：体験後の様子
写真下左：取材を受けるアテンド
写真下右：取材を受ける体験者

ダイアログ・ウイズ・タイム開催：メディア掲載



■ プレスリリース

PRESS RELEASE

知恵ある人々との対話
IALOGUE WITH TIME

「ダイアログ・ウイズ・タイム」日本初開催のご案内

報道関係者各位

2017年3月吉日

開催のソーシャルエンターテインメント「ダイアログ・イン・ザ・サークル」を運営する一般社団法人ダイアログ・イン・ザ・サークル（アサヒ）・ソサエティでは、この度、70歳以上のデジタルリーダー（アサヒ）の案内により、いのちの時間、生き方を世代を超え対話をする体験型エンターテインメント「ダイアログ・ウイズ・タイム（DWT）」を日本で初開催いたしますのでお知らせいたします。

2017年3月25日(土)

会場: DIALOG IN THE DARK TOKYO
東京都渋谷区神宮前2-8-2-B1
開催コート(計4回)：
11時/12時/13時/14時/15時/16時/
17時/18時/大スター
参加人数: 限定4名/各回8名様
ご体験時間: 約90分

**開催日時：
2017年3月25日(土)**

IALOGUE WITH TIME (ダイアログ・ウイズ・タイム)

～年齢を重ねることは経験や知恵を重ねること。それを次世代への大切な重宝に～

70歳以上のデジタルリーダー（アサヒ）とともに、世代を超えた参画者たちがさまざまなゲームやプログラムを体験し、対話していくことで、年齢を重ねることへのネガティブなイメージや偏見から、新たな可能性に気付いていく体験型イベント。

2012年イマエルデスター、以降ドイツ（フランクフルト、ベルリン）、スイス、台湾、フランスで開催、今年はフランス、シンガポールでも開催を予定している。
<http://www.dialogue-with-time.com/>

「ダイアログ・イン・ザ・サークルとは」

三宅一夫を起原とした、生涯100%の時間の中で、現職現役の「道のアサヒ」により、グループを起原として体験する「ソーシャルエンターテインメント」。1988年、ドイツの哲学博士アサヒ・アサヒ・ソサエティの発案により、さまざまな「アサヒ・イン・ザ・サークル」を、この世で世界30カ国以上に開催され、80,000人を超える人々が体験、千人以上の現職現役の「アサヒ」がデジタルリーダーを起原としてきた。日本では、1999年11月の開催以来、現在東京・外資系の会社と、大阪「対話の森」を中心に開催、これまで約19万人が体験している。

一般社団法人 **ダイアログ・イン・ザ・サークル** <http://dialogue-japan.org>
【本州に関するお問い合わせ先】 担当: 鈴木(広報担当) TEL & FAX 03-3479-9833 press@dialoguejapan.com

■ 実績

電波メディア掲載：フジテレビ、J-WAVE (ラジオ)



フジテレビ「みんなのニュースweekend」
大竹アナウンサーが実際に体験した様子 (2017年3月25日放送)



J-WAVE「JAM THE WORLD」
堀潤ジャーナリストが体験した感想 (2017年3月28日放送)

CONFIDENTIAL. Copyright© Dialogue Japan Society since 2012 (jp)
The concept of "Dialogue with Time" and its related trademarks are the intellectual property of Dialogue Social Enterprise GmbH.

ダイアログ・ウイズ・タイム開催：メディア掲載



- 新聞メディア掲載：朝日新聞、毎日新聞

朝日新聞
DIGITAL

高齢者と語り、知恵学ぶ 若いへの不安取り除く催し

2017年3月28日 19時40分



案内役の高齢者（中央）から、生い立ちを聞く参加者たち。この後、テーブルに置かれた写真から理想の老後を選び、話し合う＝25日、東京都渋谷区、鶴谷五百撮影

高齢者との対話を通じ、「歳を重ねること」を考えるプログラム「ダイアログ・ウイズ・タイム―知恵ある人々との対話」が25日、東京都渋谷区で開催された。70歳以上の高齢者と会

朝日新聞デジタル (2017年3月25日掲載)

「高齢者と語り、知恵学ぶ 若いへの不安取り除く催し」

毎日新聞

雑記帳

体が動かず目が衰えていくだけではない…

毎日新聞 2017年3月26日 東京朝刊



体が動かず目が衰えていくだけではな
い……。 「若い」を体験することで若いの豊か
さも実感してもらおうとするイベントを25
日、一般社団法人タイアローグ・ジパレン・ソ
サエティが東京都内で開いた。

参加者は聞こえにくくなるヘッドホンや視野
が狭くなるメガネをかけて不便さを体験する一
方、78歳の案内人の人生に耳を傾けたリ、ト
ジヨウすくいを教えてもらったりした＝写真・主催者提供。

参加者は皆笑顔で「老いるのが楽しみ」との感想も。今後は有料イベント化して、70歳
以上の案内で高齢者の雇用創出も狙う。お年寄りに任せれば、二匹目のトジヨウすくいもう
まくいく？ 【上東麻子】

毎日新聞 (2017年3月26日掲載)


「体が動かず目が衰えていくだけではない…」

CONFIDENTIAL. Copyright© Dialogue Japan Society since 2012 (jp)

The concept of "Dialogue with Time" and its related trademarks are the intellectual property of Dialogue Social Enterprise GmbH.

4. 今後の展開

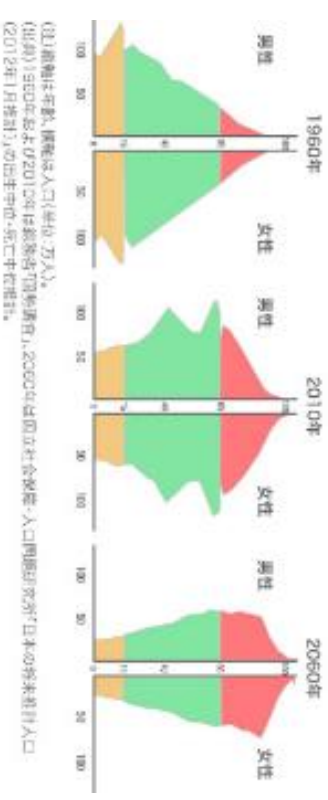
CONFIDENTIAL. Copyright© Dialogue Japan Society since 2012 (jp)

 The concept of “Dialogue with Time” and its related trademarks are the intellectual property of Dialogue Social Enterprise GmbH.

「高齢化」問題

高齢化は重要な社会問題であり、世界中で人口構造の変化が起きている。2050年には、世界人口の3分の1は65歳になると言われており、日本は世界の中で最も高齢化が進展している。

人口ピラミッドの変化



政府の基本理念

超高齢社会に対して日本政府は、

- 1) 国民が生涯にわたって就業その他の多様な社会的活動に参加する機会が確保される公正で活力ある社会
- 2) 国民が生涯にわたって社会を構成する重要な一員として尊重され、地域社会が自立と連帯の精神に立脚して形成される社会
- 3) 国民が生涯にわたって健やかで充実した生活を営むことができる豊かな社会の構築に向けて、以下に掲げる6つの基本的考え方に則り、高齢社会対策を進めている。
 - ・ 「高齢者」の捉え方の意識改革
 - ・ 老後の安心を確保するための社会保障制度の確立
 - ・ 高齢者の意欲と能力の活用
 - ・ 地域力の強化と安定的な地域社会の実現
 - ・ 安全・安心な生活環境の実現
 - ・ 若年期からの「人生90年時代」への備えと世代循環の実現

→ Dialogue with Timeはこれらの理念を実現する新しいプログラムである

今後に向けて

「高齢化」問題がますます重要となる今、私たちはダイアログ・ウイズ・タイムの初めての1日開催を終えて、定期開催に取り組む必要性を改めて強く実感している。そして、社会の関心度の高さやその効果も明らかにすることが出来た。今後開催するためには資金面が課題ではあるが、今回築いた礎を基に取り組みたい。